

第63回岐阜県消防操法大会開催！

〈揖斐川町消防団（小島分団）が優秀賞〉

8月3日（日）、白川村防災グラウンドで、「消防感謝祭」第63回岐阜県消防操法大会が開催され、揖斐郡の代表として揖斐川町消防団（小島分団）が出場し、優秀賞（6位）を獲得しました。

大会には県内の44消防団から各地区の大会などで選ばれた27隊135人が出場。今年は5人一組の「小型ポンプ操法」で、的を倒すまでの時間や操作、規律の正確さを競いました。応援に駆け付けた消防団員や家族らの声援を受けて、どの隊も訓練の成果を発揮し、レベルの高い操法を展開しました。この大会で優勝した海津市消防団は、11月8日に東京都で開催される全国大会へ出場します。大会の結果は次のとおりです。



- 優勝 海津市消防団
- 準優勝 恵那市消防団
- 優秀賞 瑞浪市消防団
瑞穂市消防団
神戸町消防団
揖斐川町消防団
- 優良賞 土岐市消防団
垂井町消防団
北方町消防団
本巣市消防団



▲操法（放水）の様子



▲団員の結束で優秀賞を獲得

いびがわの祭り開催

〈6500発の花火が夜空を彩る〉

8月3日（日）、いびがわの祭りありがとう花火が揖斐川河畔、揖斐川町役場から前島橋を中心に開催され、多くの人で賑わいました。

揖斐川の水の恵みに感謝するこの花火大会では、願いを込めたメッセージシールを花火玉に貼って打ち上げます。

今年約6500発の打上げ花火と、「全国育樹祭」の文字が現れる仕掛け花火があり、訪れた多くの人を魅了していました。

また、揖斐川町合併10周年記念イベントとして行われた今回は、清流で育まれた食、文化、伝統などの魅力を伝え清流の国ぎふづくりに繋げる催し「清流まるケ」が開催され、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の総合プロデューサーを務めた芸術家の日比野克彦さん監修の「まるケ灯台」に火がともされたほか、合併10周年の10を表した「いく10さいのあかり」を揖斐川に浮かべるなど、会場がアートに飾られました。

そのほか、恒例となっている「民踊流しおどり」や役場駐車場では商工会主催の「歌謡ショー」、「屋台村」などの催しがあり、祭りを楽しむ浴衣姿の来場者であふれていました。



▲夜空を彩った打上げ花火



1. まるケ灯台
2. 民踊流しおどり
3. 歌謡ショー
4. 「いく10さいのあかり」と花火



▲体の動きを確認する参加者

7月2日(水)、揖斐川健康広場でラジオ体操講習会が開かれました。町青少年育成町民会議の取り組みの一つにもなっている夏休みのラジオ体操、この日は、NHKテレビ・ラジオの体操指導者 青山敏彦さんとテレビで活躍しているアシスタントの天井澤愛里沙さんを講師に迎えてラジオ体操の基礎を学びました。この講習へは子どもから大人まで約100人の参加があり、講師の手に合わせて熱心に体の動きを確認していました。私たちに馴染みの深いラジオ体操、普段は何気なく行っていることがありますが、それぞれ動きに役割があり、的確に動かすことで効果が得られるようです。

ラジオ体操講習会

～基礎を学んで健康づくり～



▲土のうを積み上げる参加者

7月6日(日)、岡島橋下流の河川公園で水防訓練が行われました。出水時期前に行われたこの水防訓練には、大垣消防組合、揖斐郡消防組合、揖斐川町消防団や近隣町の消防団など水防関係機関が参加し、技能や連携の習熟を図りました。訓練では、水や土砂をせき止める土のうの積み上げや、鋼板を組み立てる工法などの実践が行われ、参加者は熱心に取り組んでいました。また、国土交通省緊急災害対策派遣隊による排水訓練や岐阜県防災航空隊による救助訓練も行われ、参加者が見守りました。揖斐川水防事務組合管理者の宗宮町長は「徳山ダム completion によって安全な水配りができているが、万が一には皆さんの力を借りたい」と話しました。

揖斐川で水防訓練

～方が一の災害に備えて～

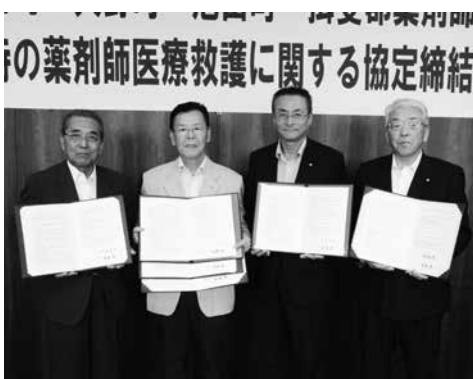


▲交通安全を呼び掛ける参加者

7月14日(月)、夏の交通安全県民運動(7月11日～20日)に合わせて、交通安全街頭指導が揖斐警察署前の国道303号で行われ、ドライバーに安全運転を訴えました。街頭指導には、揖斐警察署、揖斐地区交通安全協会や交通安全女性、ダンブ協会のメンバーら約60人が参加しました。伊藤善弘揖斐警察署長は「依然交通情勢は厳しい、1件でも交通事故が減るよう呼び掛けてもらいたい」とあいさつしました。参加者は、のぼり旗を手に交通安全啓発グッズをドライバーに手渡し、交通安全を呼び掛けました。

夏の交通安全県民運動街頭指導

～目指そう交通事故ゼロ～



▲揖斐総合庁舎で行われた調印式

7月16日(水)、揖斐郡薬剤師会と揖斐川町、大野町、池田町の郡内3町が災害時の薬剤師医療救護に関する協定を結びました。この日、結ばれた協定は、救護所や避難所での傷病者に対する調剤と服薬指導、医薬品の管理、供給、避難所の衛生管理などで、いずれも町からの要請に対して支援が受けられるものです。調印式で、揖斐郡町村会長の宇佐美町長(大野町)は「協力機関との協定で災害時の医療救護の拡充ができた。今後も防災力、減災力を高めていきたい」、揖斐郡薬剤師会の広瀬彰会長は、「大地震はいつ発生してもおかしくない。速やかに体制を整えたい」とあいさつしました。

薬剤師会と揖斐郡三町が災害時協定を締結

横山ダムが50周年

横山ダム（藤橋地域）が完成から50周年を迎え、7月19日（土）に記念式典が行われました。

昭和39年に完成した横山ダムは、洪水調節や水力発電を目的として建設されたダムで、堤高は、80メートル、全国的にも珍しい内部に空間がある中空重力式ダムです。

ダムの堤頂部で行われた式典には、約80人の関係者が出席してテープカットなどで50周年を祝いました。国土交通省中部地方整備局の八鍬隆局長が「今後も地域の安全を守るためにダム管理に万全を期す」とあいさつしたほか、50年の歩みの紹介や郷土芸能の「三倉の太鼓踊り」の披露などもありました。

また、この日からダム見学会やパネル展示なども行われダム愛好家や家族連れの参加者に喜ばれていました。



▲50周年を祝うテープカット

「清流まるるケ」採火式

～3つの火が結集～

7月19日（土）、「清流まるるケ」採火式が徳山会館で行われました。

この採火式は、8月3日に行われた「清流まるるケ」のシンボル「まるるケ灯台」の灯りを採火するもので、それぞれ意味を持つ「合併の火」「国体の火」「育樹の火」の3つの火の採火が行われました。

採火式では、緑の少年団に所属する町内小学校の児童らがマイギリ式の火起こし器で火を起こし、それらの火を集火台にともしました。集火をおこなったのは旧坂内村村長の新井弘文さんら代表者3名で多くの出席者が見守るなか、慎重に火が運ばれました。

その後、宗宮町長がランタンに火を移して「清流まるるケ」当日まで保管しました。



▲集火台に集まった火

いび川温泉藤橋の湯 来館者100万人達成

7月19日（土）、いび川温泉藤橋の湯の来館者数が100万人に達し、施設玄関前で記念のセレモニーが行われました。

平成19年4月にオープンした同施設は、お湯の質が良いと温泉愛好家に人気で町外や県外からも多くの人々が訪れています。昨年10月には来場者90万人を迎え、今回は早くも100万人に達しました。

来場者100万人を祝うセレモニーでは、100万人目の来場者とその前後の人に、家電製品や回数券などの記念品が贈られたほか、くす玉開扉などがありました。100万人目は、本単市の高橋浩二さんで、高橋さんは「とても驚いた。きれいな露天風呂は気持ちいい」と笑顔で話しました。



▲くす玉を割る高橋さんと関係者

数字行灯ワークショップ開催

あんどん

7月20日（日）、揖斐川町中央公民館でいびがわの祭り（清流まるるケ）で揖斐川に浮かべた数字行灯に飾り付けをするワークショップが開かれました。

芸術家の日比野克彦さんが監修し、造形作家の中島法晃さんが指導にあたったこのワークショップには、芸術や美術に関心のある親子など80人が参加。

木の幹や葉に見立て作られた行灯は高さ2.5メートルほどあり、揖斐川町合併10周年に合わせて、それぞれ1と0の形をしています。

この日は、参加者らが、和紙を貼ったり、色を塗ったりして行灯に飾り付けをしました。

いびがわの祭り当日、揖斐川に浮かんだ行灯は、やわらかい光を放ち来場者に癒しを与えていました。



▲和紙に色を塗る参加者



▲川下りに挑戦する参加者

7月23日(水)から25日(金)に第23回緑の少年団全国大会が揖斐川町で開催されました。

緑の少年団は、緑と親しみ育って活動を行う自主的な団体で、全国に約3300団体、33万人の団員がいます。この日から、行われた全国大会には県外から35団体、県内からは20団体の参加があり、体験活動や共同生活を通して、緑への理解や連携を深めました。

交流活動は町内のふじはし星の家や揖斐高原栃の実荘など町内の宿泊施設のほか美濃市などにも分かれて行われ、ツリークライミングや川遊びなど自然に触れる体験を満喫しました。

また、7月29日に開かれた福島県緑の少年団大会へは、揖斐川町から9名の児童が参加して育樹活動を行いました。

緑の少年団全国大会開催

緑を愛し育てよう



▲音楽創作劇「夜叉ヶ池物語」

夜叉ヶ池伝説道中まつりが、7月26日(土)、遊らんど坂内特設会場で行われ、家族連れなど、約2000人が訪れました。

このまつりは、約1300年前から伝わる夜叉ヶ池伝説を再現する創作音楽劇をメインイベントとして、ステージでは、長浜市湖北地域のアイドルユニット「キャンセ浜姫」のショーや「鼓國雷響JAPAN」の太鼓演奏などが行われ、来場者を楽しませていました。

夜叉ヶ池伝説は、美濃の国神戸(現在の神戸町)の郡司が、恵みの雨の返礼に娘を夜叉ヶ池にすむ龍神に嫁がせたとする物語です。地元の人たちが出演する音楽創作劇「夜叉ヶ池物語」のクライマックスシーンでは全長21メートルの龍人が現れ、夏の夜に幻想的な伝説が蘇りました。

夜叉ヶ池伝説道中まつり

伝説の龍神が舞う



▲坂内を目指すランナー (藤橋地域)

7月27日(土)と28日(日)の2日間をかけて、夜叉姫ゆかりの神戸町から坂内の夜叉ヶ池までを往復する「夜叉ヶ池伝説マラニック」が開催されました。コース延長が13.5kmという過酷を極めたこの大会には今年も全国から312人の参加がありました。初日の27日は、神戸町役場をスタートして揖斐川沿線を走り坂内の道中まつりの会場を目指しました。

二日目は、早朝に坂内交流センターを出発して夜叉ヶ池までの山道を駆け登り、折り返して神戸町役場を目指しました。汗ばむ陽気となった両日でしたが、参加者らは颯爽と揖斐川を駆け抜けました。

夜叉ヶ池伝説マラニック

13.5kmを踏破



▲人気楽曲を踊り会場を盛り上げる職員

山びこの郷夏祭りが、7月26日(土)、山びこの郷・久瀬振興事務所駐車場で開催されました。

会場では、よさこいや幼児園児と小学生の合唱、盆踊り、バザー、そのほかにも工夫を凝らした出しものがあり、山びこの郷の入所者や地域の人など多くの人で賑わいました。

入所者に祭りの雰囲気を楽しんでもらおうと始まったこのイベント、近年では地域のボランティアや若手グループの参加もあり、夏の風物詩として盛り上がりを見せています。

祭りのクライマックスには、西津汲地内から花火の打ち上げが行われ、訪れた人を魅了しました。

山びこの郷夏祭り開催

女子ソフトボール日本代表が
小中学生を指導

8月1日から開かれた大垣国際女子ソフトボール大会に出場した女子ソフトボール日本代表チームが大会前に強化合宿地として訪れた揖斐川町健康広場で、小中学生を対象としたソフトボール指導を行いました。

7月28日(月)、この日指導を行ったのは、オリンピック金メダリストでエースの上野由岐子選手ら日本代表選手らで、揖斐川町に本拠地がある岐阜NEXUSとNEXUSジュニアの小中学生約40人が指導を受けました。

バッテリーと内野、外野に分かれて、指導が行われ、基礎となるキャッチボールや背走の練習など、実践的なボールさばきを教わりました。

また、指導を受けた、NEXUSジュニアは、7月31日から北海道で開催された全国大会に出場し、優勝しました。



▲代表選手の指導を受ける参加者

桂地区農産物販売所
工事安全祈願祭

お茶の生産で全国的にも知名度の高い桂地区に建設される農産物販売所の工事安全祈願祭が7月28日(月)、建設地で開かれました。

お茶の生産・加工が盛んな桂地区ですが、これまでPRや販売の拠点となる施設が整備されていないことが課題となっていたため、町が国や県の交付金を充てて建設する運びになりました。

建築面積200㎡の施設内にはお茶の販売スペースのほかにPRコーナーやお茶を使ったお菓子を提供する茶房などを備える予定で27年4月のオープンを目指しています。

安全祈願祭には、県や町の関係者や工事関係者が出席して神事を行い、工事の無事を祈りました。



▲安全祈願祭の様子

北海道芽室町の児童が
揖斐川町で研修

揖斐川町と友好都市提携を結んでいる北海道芽室町の小学生14名が、7月28日(月)から7月31日(木)にかけて町を訪れ、研修を行いました。7月29日(火)には、春日貝原棚田で藍染を体験したり、さざれ石公園を見学するなどして揖斐川町の文化や自然に触れました。

また、30日には、大和小学校を訪れお互いの町や学校の特色を発表して交流しました。大和小学校では児童に教わって桂古代踊にも挑戦しました。

また、ほかにも子ども歌舞伎の稽古場を見学したり、街を散策するなどして揖斐川町を満喫しました。

訪れた児童からは「川がたくさんあった」「竹が生えているのに驚いた」「田んぼを初めて見た」などの感想がありました。



▲藍染のスカーフが完成♪

第15回久瀬花き品評会開催

7月31日(木)久瀬公民館で、「第15回久瀬花き品評会」が開催されました。

品評会には久瀬地域で生産された小菊50点、しきみ30点が出品され、色や形、つや、商品性などが審査されました。

最優秀の岐阜県知事賞は、小菊を出品した、村瀬佐一さんが受賞しました。

そのほかの入賞者は次のとおりです。

■切花の部(小菊)

金賞(町長賞) 長屋 建志さん
銀賞(岐阜生花市場協同組合理事長賞) 山本勘三郎さん

銅賞(いび川農業協同組合長賞) 長屋 薫さん
長屋 たつよしさん

奨励賞 長屋 たつよしさん
長屋 たつよしさん

■枝物の部(しきみ)

金賞(議長賞) 高橋 静好さん
銀賞(揖斐農林事務所長賞) 高橋 努さん

銅賞(久瀬花き生産組合長賞) 河合 元美さん
高橋 時江さん

奨励賞 高橋 時江さん



▲審査の様子